

科目名	国際保健学実習	code number : HPM-GH 381	選択	2 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	崎坂 香屋子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬期	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

国際的な公衆衛生の課題は人口や気候変動、疾病の構造転換、そして国際協力に携わる組織の多様化など、近年特に大きな変化がみられる。先進国も真摯に取り組むことが期待されているSustainable Development Goals(SDGs:持続可能な開発目標:2016-2030)の進捗や国際情勢とともに変容する援助の潮流を俯瞰しつつ、グローバルヘルス分野で実際のフィールドに出向いて情報収集や現状分析を行う。本科目では地域から国レベル、そして国際的な取り組みとしての公衆衛生の問題解決の方途や仕組みを学び、各ステークホルダーのかかわりについて実践を通じて理解し、説明できるようになることを目的とする。

詳細な現地のプログラムは履修者の国際保健での経験や希望を考慮し個別に企画する。訪問国の政情や自然災害等の状況により実習実施が困難である場合については実習場所と内容を変更することがある。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

- 1.国際協力のフィールドにおける問題認知とその分析方法や解決能力の素養を知る。
- 2.専門職として組織のマネジメント・運営について基礎を身につける。
- 3.公衆衛生に関わる国際社会のステークホルダーの機能を実践の場で知る。
- 4.海外協力の専門家らと意見交換し、将来のキャリア形成について考える。
- 5.国際保健における社会的起業(entrepreneurship)の考え方を学ぶ。

【行動目標(SBO)】

- 1.国際協力のフィールドにおける問題を認知し分析して、解決するための基本的な方法について説明できる。
- 2.専門職として組織のマネジメント・運営についての基礎や関わる国際社会のステークホルダーについて説明できる。
- 3.海外協力の専門家らと意見交換し、将来のキャリア形成、国際保健における社会的起業の考え方について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・実習への参加態度(50点)、帰国後のレポート(50点)
- ・実習の形態によっては受け入れ先機関からの評価を考慮する。

4. 教科書・テキスト

- ・実習前に指示する。

5. 参考書

- ・実習前に分野に応じて指示する。

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- ・実習に必要な関連知識について調べておくこと。
- ・当該期間に30時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・本実習を履修するには、国際保健学概論、国際保健学演習の履修することを推奨する。
- ・本実習への参加の費用(渡航費・滞在費・海外旅行傷害保険料)は基本的に各自の負担である。
- ・レポートを提出し、実習報告会で発表する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

国際保健学実習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
<p>本実習は、海外のフィールドならびに国際的な活動を行う現場に滞在する中で、その地域や現場での問題を見出し、解決する方策を実践の場で考えることを目的としている。主に夏季・冬季に海外のフィールドで現地の受け入れ先との調整によって決定する。</p> <p>今年度は個別に実習の機会を設ける。履修希望者は4月中旬に科目責任者に連絡をとること。</p> <p>過去の実習例： バングラデシュでの実習</p> <p>近年、国際保健を取り巻く潮流の変化が生じており、従来の国連機関・政府機関が実施する国際協力から、民間の機関が果たす役割が大きくなっている。本実習では、従来最貧国といわれてきたが、近年経済発展も著しく、社会的起業(entrepreneurship)やBOPビジネスのメッカともいえるバングラデシュ国を訪問し、同国における新しい国際協力のあり方について学んだ。訪問先はバングラデシュ国際下痢研究所、BRAC大学公衆衛生大学院、UNICEF等の組織であった。各地での観察等を通じて現地の問題を把握し、その解決の方策を検討した。</p> <p>フィリピン共和国での実習</p> <p>実習参加者は事前学習において期間中に注目するテーマを決めて実習に臨んだ(例:結核)。同国タルラック州の自治体において、Barangay Health Worker宅にホームステイして住民の生活の中から事前に設定した問題について考えた。またヒアリングを通じて情報を得て、どのような要因が関係しているのかを把握した。Barangay(最小行政単位)、町、州、国、世界全体での問題の公的統計による現状把握と対策についても情報を得て分析した。</p> <p>国のレベルとして保健省を訪れ、現在の保健医療政策に関して情報を得、参加者のテーマに即した分野の保健医療政策とその遂行状況を学んだ。そのほかのステークホルダーとして世界保健機関(WHO)西太平洋事務局と複数のNGOを訪れ、参加者が設定した問題の解決のためにいかに異なる組織が活動しているのかを体験する機会を得た。</p>				